

賢い活用で、自分らしい資産形成を

日経電子版がテクニカルにサポートする “パーソナルファイナンス”

「投資に関心はあるがうまくいかない」という人は多いのではないだろうか。

日本経済新聞 電子版なら、最新相場情報などのコンテンツが充実。

豊かな生活設計のために個人投資家の資産運用を強力にサポートする。

2人のビジネスパーソンを例に、電子版を活用した実践的な資産運用術を紹介する。

「あの会社の株価、上がったのか…」
1年前から株式投資を始めた商社マンの海山始(35歳)は、始業前のオフィスで日経新聞を開き、ため息をついた。紙面には、東証1部上場のある企業の株価が高騰したニュースが取り上げられている。直近の社長交代が市場に好感されたようだ。マイナスを覚悟で、1週間前に売却したばかりの銘柄だった。

資産運用の第一歩は 投資目的とスタンスを明確にする

「あのタイミングで手放すべきではなかったのか」。後悔先に立たず。海山が肩を落としていると、上司の木本敏(43歳)が声をかけてきた。木本は投資歴20年。経済ニュースに敏感で、日経新聞だけでなく日本経済新聞 電子版も使いこなす。「あの株を売って、損切りした方が得策だと思ったのですが」と悔やむ海山に、「株をヤマカンで売買していたら、資産を成長させるのは難しい」と木本。「投資を始める前に、投資目的とスタンスを明確にすること。成長が期

待できると思う銘柄に、中・長期で投資するのが基本だ。そのうえで、求めるリターンを得るために、どの程度のリスクを許容するかを考えなければならない」とアドバイスする。失敗続きの海山に比べ、木本は順調に資産を増やしているようだ。2人の違いはどこにあるのだろうか。木本は「東証だけで2000以上の銘柄がある。自分の投資スタンスに合った銘柄を見つけるには、情報を使いこなす能力が不可欠だ」と話しながら、

自席のパソコンを立ち上げた。開いたのは、日経電子版だ。木本によると、電子版の「マネー」 「マーケット」セクションは、投資・金融情報が充実し、株式や投信、為替などの最新情報や、資産運用の基礎を学べるコラム、マネープランのシミュレーターなど多彩なコンテンツを利用できる。「投資を始める前に、電子版の『マネー』にある『資産力UP』に目を通してみたらどうだ。初心者はコラムで勉強するといい」という木本の勧めに従

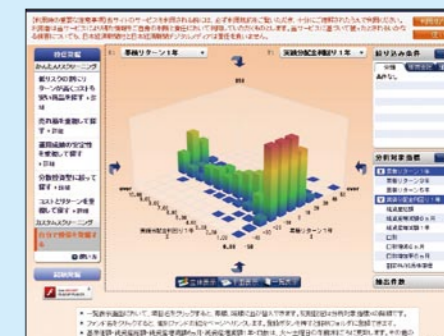
●中・長期的運用計画に電子版を活用する



「マネー」の「貯蓄」で、主要金融機関の預貯金金利一覧が見られる



自分に合った投信を探せる。「マネー」の「投信・ETF」も便利だ



「投信発掘ツール」を使えば、自分の運用ルールに合った銘柄を探せる

い、海山も電子版をチェックしてみることにした。

リターンとリスクのバランスを 考えた運用計画を立てる

帰宅した海山は、早速パソコンで電子版を開いてみた。「マネー」セクションは、「投信・ETF」や「金」など値動きのある金融商品だけでなく、「年金・保険」や「貯蓄」などマネープランを総合的にフォローする企画が充実している。

電子版の「マネー」「マーケット」では、市場動向の報道・分析だけでなく、コラムやツールも充実している。

投資経験の浅い人は、「マネー」を見てみよう。金融商品の基礎知識や投資で注意すべき点、投信の選び方など、資産運用を始めるうえで押さえておきたいポイントがまとめられている。

「マーケット」では、株式や為替、商品などに関する情報を素早く提供。日経の記者が取材した記事も併せて読める。「マーケット」に掲載する記事の大半は電子版オリジナルなので、投資のヒントとして確実に読んでおきたい。

特集記事やフィナンシャルプランナーのコラムに目を通すうちに海山は、預金を入社した時に開設したメーバンクのX銀行に預けたままだったことを思い出した。昨今の低金利が気がかりではあったが、海山は「どの銀行も大差ないだろう」と考え、預金も含めたマネープランを検討したことがなかったのだ。「まずは足元から見直してみるか」

「マネー」の「貯蓄」コーナーでは、主要金融機関の大口定期預金(1000万円以上)やスーパー定期預金の最新金利が一覧表にまとめられている。「外貨預金は高金利だが為替リスクも考えないと」。妻と話した結果、特に使い道の決まっていない資金の一部をリスク性商品への投資に充てることにした。

「それにしても、全部株式投資というのはよくないだろう」。海山は、過去の失敗と木本のアドバイスから、株価は経済情勢に敏感で、値動きのブレ幅が大きい資産であると認識している。運用資産をすべて株式に投じてしまうと、下落局面に保有資産が一斉に値下がりする恐れがある。

「投資信託はどうだろうか。外貨建て資産を組み入れているファンドなら、日本市場が落ち込んだ時のカバーになるのではないか」

投資信託は、国内外の株式、債券、REIT(不動産投資信託)など幅広い資産に投資する商品だ。数は数千本にも上り、運用方針はファンドによって異なる。「マネー」の「投信・ETF」では「投資信託サーチ」でランキングやタイプ別に投信を検索可能なので、ファンドの絞り込みに役立つ。

さらに「投信発掘ツール」を使えば、「運用の安定性」や「分配金利回りとコストのバランス」など、自分の運用ニーズに最も近い銘柄を、過去の運用成績などを基にピックアップできる。リスクとリターンの関係を図表に落とし込むので、目で見て直感的に操作できる点も魅力だ。

「債券型投信は、利息収入で安定した分配が期待できそうだ。問題は投資対象国。新興国の成長力は魅力的だが、先進国の安定性も重視したい」。投信関係のニュースなどに目を通し、直近の投信市場動向を頭に入れたうえで、

●日経電子版で投資の材料とヒントを入手する



「マネー」セクションでは、初心者向け入門編や金融商品情報を満載する



「マーケット」セクションでは、投資と金融に関する独自情報を集約する

人気の高い海外債券型ファンドに投資することに決めた。

便利ツールを使いこなして運用成績を向上させる

翌日、木本とともに営業先での企画提案を終えた海山は、早速電子版について話した。「あの後電子版を読んでみたのですが、ニュースだけではなく資産運用に使えるツールもたくさんありますね。まずは投信から始めています」

木本も「投資初心者は投信から始めるのがお勧めだ。慣れたら株式や金に分散投資するといいだろう」とうなずく。木本はリスクヘッジの一環として、金投資も検討しているという。「電子版は個別株や金の情報収集にも役立つ機能がある。コーヒーでも読みながら説明しよう」

喫茶店で一息つくと、木本はかばんからタブレットPCを取り出して電子版にアクセスし始めた。インターネット環境が整っていれば、場所を問わずに閲覧できるのが電子版ならではの魅力だ。

「株式に関する情報は、『マーケット』セクションにまとめられている。有料会員ならすべての情報にアクセスできる」と説明する。「そういえばあの銘柄はどうなっているかな」と言いながら木本がタップしたのは、「資産簿」として有効活用できる「銘柄フォルダ」だ。気になる銘柄を登録しておけるので、その都度検索して情報を呼び出す手間が省ける。

木本は画面を海山に見せて、「これから個別株を始めるなら、『銘柄発掘ツール』や『銘柄比較分析レーダー』を覚えておくと便利だ」と言う。

「銘柄発掘ツール」とは、「投信発掘ツール」の株式版とも言える機能だ。PER(株価収益率)や配当利回りなど11の指標から任意の項目を選び、条件に合った銘柄をふるいにかけることができる。さらに、対象銘柄の財務内容などを精査したい時に使えるのが「銘柄比較分析レーダー」だ。

「僕は以前手放す時に失敗しているから、売り時が心配です」という海山に、木本は「マーケット」セクションの「スマートチャート」機能を勧めた。「テクニカル指標を使った分析ができるうえ、『価格帯別売買高』を見れば売買高が積み上がっている価格帯がひと目で分かるから、売買タイミングを考える参考になるだろう」

その日の帰宅途中、海山はスマートフォンで電子版にアクセスし、気になる銘柄に関する記事をチェックした。およそ1時間の通勤時間。以前はつり革をつかんで立ったまま眠っていた海山だったが、今では電子版アプリで新聞記事に目を通したり、気になる銘柄のニュースを調べたりと、常に日経の情報をチェックする習慣がついた。

電子版のコンテンツをビジネスにも役立てる

「よし、順調だ」。海山は始業前のオフィスで、保有している投信の純資産総額を確認して笑顔を浮かべた。電子版を使い始めて1カ月。通勤時間や始業前に、スマートフォンなどで、電子版の資産運用や業務に関する最新情報をチェックするのが新たな習慣になった。

これまでは朝、始業前に新聞をざっと斜め読みしていただけたの

●強いポートフォリオを作るために日経電子版を活用しよう

家計力投資編

投資の基本を固める 保険・貯蓄・投信

資産形成は、保険や年金も踏まえた総合的なマネープランニングが必要だ。電子版なら、保険商品や貯蓄商品を利用した資産運用のノウハウを基礎から学べる。少額で投資できる投資信託は、資産・テーマ別に多数のファンドがあるので、電子版で情報収集し、最適なファンドを見つけよう。

電子版でここをチェック

- ▶「マネー」→「投信・ETF」の「投信HOTニュース・コラム」
- ▶「便利ツール」の「投信発掘ツール」

王道投資編

投資の王道は株式投資

株式投資はリスクマネジメントを身につけ、しっかりした方針で臨みたい。電子版で興味のある企業を絞り込み、「日経会社情報 オンライン版」や「記者の目」で、日経記者による業績予想や決算状況を読んで銘柄選びの参考にしよう。売買タイミングの検討には、「スマートチャート」が役立つ。

電子版でここをチェック

- ▶「便利ツール」の「銘柄発掘ツール」
- ▶「マーケット」→「日経会社情報」の「スマートチャート」

代替投資編

多様なポートフォリオを実現する金投資

現物資産である金は、発行体のデフォルト(債務不履行)リスクがなく、インフレに強い資産と考えられる。金地金はまとまった資金が必要だが、純金積立や上場投資信託(ETF)は、少額でも投資可能。金価格は世界経済の動きと関係が深いので、投資を検討する際は、電子版の情報も参考にしよう。

電子版でここをチェック

- ▶「マネー」→「金」の「豊島逸夫の金のつばやき」、「本日の店頭金価格」

FPに聞く 日経電子版活用術



深野 康彦氏
ファイナンシャルリサーチャー代表
ファイナンシャルプランナー

1962年生まれ。89年4月に独立系FP会社に入社。96年1月に独立。2006年にファイナンシャルリサーチを設立し、金融資産運用設計を中心に活躍。著書に、「これから生きていくために必要なお金の話を一緒にしよう!」(ダイヤモンド社)など。

お金の問題は、一生つき合っていくかなければならない重要なテーマです。だからこそ資産運用は、興味のある分野から投資を始めてほしいと思います。例えば海外旅行が好きな人なら外貨運用から入ってもいいですし、金に興味があるなら金投資もいいでしょう。純金積立や上場投資信託(ETF)など投資経験に応じて様々な手段があります。

大事なのは投資テーマ。興味のある分野への投資なら、「今、値動きはどうなっているか」「なぜここで市場に変動が起きたのか」を学ぶのに積極的にになれるからです。

日経電子版は株価や為替相場などの1次情報をすぐに確認できるだけでなく、市場の変動に関する記事や有識者のコラムなどを読めるため、様々な観点から相場動向を検証するのに役立ちます。また、市場が大きく動

くような出来事が起きた時にも、記事の分類・保存機能やニュースメールがあれば、保有資産の見直しを行ううえでの参考となります。

ビジネスなど“オン”の情報収集に加えて、プライベートな資産運用や年金、保険など“オフ”の情報を入手する時にも、日経電子版を使いこなしてほしいですね。

で、見落としてしまう記事が多くあった。電子版を併せて活用することで「ニュースの読み逃し」が減った。

また最近では、会社情報も電子版でチェックするようになった。当初は、資産運用のために上場企業の決算書や財務諸表を勉強していたが、電子版の様々な記事を読むうちに、企業の目指す成長ストーリーを理解することは仕事の面でも非常に役立っていると感じるようになった。「もうすぐ発表される四半期決算にも注意が必要だ」。電子版で、人事や決算情報を検索する習慣もついた。

資産運用も仕事も好調な海山の隣では、後輩がため息をついている。外貨運用がうまくいっていないようだ。「あっという間に為替レートが変わっていたのです。どうすればいいでしょう」。——悩む後輩に、さっそく電子版の活用術を教えるつもりだ。

●日経電子版の便利ツールで資産倍増を狙う



気になる銘柄は、「銘柄フォルダ」に登録しておく



有望株を探したいなら「銘柄発掘ツール」



「銘柄比較分析レーダー」で、個別株を比較できる



個別株をレーダーチャートで比較する